

# 2017年秋号

## 葉だより

発行責任：福祉クラブ生協多摩  
家事介護 W. Co 葉  
TEL 044-922-5585  
2017年10月30日発行



認知症に優しい社会づくりを  
「認知症サポーター養成講座」を受講して

九月二十七日(水)午後一時半から四時まで多摩区役所6階にて多摩区役所地域まもり支援センター主催の「認知症サポーター養成講座」が開かれました。葉のメンバー一名も受講してきました。認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者となる認知症サポーター。市内では3万3千人がサポーターになっているといわれています。この日も定員八十人のうち一般の人や高齢者も大勢受講されていたそうです。認知症サポーターには「認知症の人を応援します」という意思を示す「目印」であるオレンジリングが渡されました。どこかで気になったことですが、なぜ認知症の理解にオレンジ色が使われるのでしょうか？

江戸時代に活躍した陶工、酒井田柿右衛門が作った赤絵磁器は柿の色からヒントを得たと言われ海外に輸出され高い評価を得ました。ここから認知症サポーターのカラーであるオレンジが認知症支援の象徴として日本から世界に広く知れ渡ってほしいという願いが込められているそうです。2005年に日本で始まった、「認知症サポーター養成講座」。日本ではサポーターが九百万人を超えました。世界にも広がっており英国、ドイツ、デンマーク、オランダ、韓国、中国など計十三カ国が取り組んでいます。この制度の発案者である菅原弘子さんは「この仕組みのキギは専門職を養成することではなく、大多数の素人が正しい知識を持ち、偏見をなくすこと。それが認知症の人や家族に優しい社会につながるのです。」と述べられています。



「オレンジリング」をつけて認知症理解の輪を広げよう！

「人間てね、親が徘徊して困ってるという時は泣くけども、人が自分とおんなしことを話すと笑うんですよ。」  
認知症の人と家族の会前代表理事  
高見国生

認知症の親の介護をする者同士が悩みを話していると、「ああ、あの人も同じか」と知って、自分を大勢の中の一人として見られるようになる。自分に距離がとれると、自分を唾う(わらう)余裕も得られる。人はこういう形でも知らぬまに支え合っている。

編集後記…前回の葉便りをご覧くださったかたから、「次回にもう一度字を大きくして高見国生氏のことばを載せてください」とリクエストがありました。心にしみることばです。それから、「オレンジリング」のオレンジ色が取入れられた理由の一つに、明るさや楽しさを象徴している色だからだそうです。オレンジ色に込められた意味つまり“支え合う優しいまなざし”ひいては“他人を思いやる気持ち”を理解し、「オレンジを心に持っている人」でいたいと思いました。(K)



今回使用した福祉クラブの消費材は「遊☆O☆米」に「合わせ酢」と「五目ずしの素」そして油揚げは「おいなりコンちゃん」。なんと火を使わずにいなり寿司が作れました。とっても手軽なので、行楽のお弁当にもおすすめです。ビッグサイズでおいしかったですよ！

中野島事務所にて



いなり寿司の完成！



九十歳。何がめでたい  
佐藤愛子

おもしろいと話題になっただけあって、一気読みしてしまいました。「三越トイシ事件」や「いたずら電話撃退法」にはおなかを抱えて笑い、「ハナのぐちゃぐちゃ飯」ではおもわず涙があふれました。昨今の日本の社会に対する怒り、憂いなど幅広い年齢層に共感してもらえる内容だと思えます。作者の「ヤケクソ」の力のおかげで勇気ができました。(K)

「ムセる、せきこむ、かすれ声」がなくなる！のどの不調が消え、健康年齢ものびる！脳卒中より怖い「誤嚥性肺炎」を自力で防ごう！なんとも気になることは満載です。いつまでも美味しいものを口から食べ、いつまでも飲み込めるように、今のうちから対策をたてたいです。トレーニングのどの体操を教えてください。(K)



肺炎がいやなら、のどを鍛えなさい  
気管食道科専門医  
西山耕一郎

